

11.5 なづけるアンケート抄—Q.私の知っている伝説?—

Facebook「とある民俗学講師の補足メモ」

- * 「伝説」のあいまいさ：「言語芸術」と「心意現象」のあいだ、「呪術」「儀礼」「信仰」「歴史」「文芸」などの隣接概念
- * 「伝説」の伝承経路：口承、書承、ラジオ、テレビ、ネット…
- * 「伝説」と「都市伝説」：対象物の浮遊性、話者（伝承者）の非限定性／マーケティングへの回収
- * 「伝説」は「生活世界」を「なづける」：「伝説」は事実ではないが「伝説が伝えられていること」は事実

【伝説?】小学生の頃、友達とよく近所の通称「ゴリラ山」に遊びに行っていた。やがて、その山に関する都市伝説が広まりはじめた。私はいつものように友人とその山に秘密基地を作りに行ったのだが、途中、ある友達が「ゴリラ山で着信音を3回聞くと呪われて死ぬ」と言い出した。4人で行ったのだが、私ともう1人は怖くなってすぐに帰った（宮崎市）。

【白狐】北海道天塩郡豊富町には白い狐の伝説があると祖母から教わった。祖母の祖父が開拓をしていたとき、ある若い男が朝方に白い狐を見たという。男はそのまま山を下って町に行ったが、夜になっても帰ってこず、次の日の朝、馬だけ帰ってきた。そこで村を代表して祖父と大叔父が探しに行ったところ、男はお地蔵様の前で馬糞を牡丹餅のように積み上げ、その前で正座し、手を合わせた格好で死んでいたという。それから白い狐は人を騙すと言い伝えられてきた。祖母も二〇歳くらいのとき白い狐をみたらしく、その夕方、大叔母を迎えに行った帰りに車を走らせていると、満月が赤くなり、後ろから大きくなって追いかけてきたそう。祖母の友だちや母のいとも騙されたことがあるらしい。

【大蛇】新潟県関川村のおおりとうげという伝説を祖母から聞いた。大蛇を倒した男がその大蛇を味噌漬けにした。妻には味噌漬けの樽を一定期間開けてはいけないと忠告した。にも関わらず、妻は我慢できなくなり樽を開け、大蛇の味噌漬けを食べた。すると、妻はいつの間にか蛇になっていた。

【座敷童】祖母から座敷童の話聞いた。祖母が離れで寝ていたとき、小さな子供が速足で歩く足音が聞こえた。一緒に住んでいる叔父も、離れで小さな女の子の笑い声を聞いたことがあるそうだ。田舎で近くに住む女の子もおらず、祖母も叔父も霊感があるそうなので、本当に座敷童がいるのかもしれない（和歌山県海草郡紀美野町）。

【神隠し】2010年の夏休みに三重県伊賀市猪田にある曾祖父の家に行った際の話。昼過ぎ、祖父、父、兄、私の四人で家の小高い裏山に登っている時のこと。祖父いわく、その裏山は山全体が一つの神社になっていて、神々を祀っており、日が落ちてから子供一人で入ると神隠しにあうとのことだった。当時五歳の私は、神隠しの意味をしっかりと理解していた訳ではないが、恐怖心を覚えたことを克明に覚えている。

【小野小町】秋田県湯沢市の小野という地域は小野小町の出身地とされており、その伝説を小学生時代に当時の教員から聞いた。その話によると、小野小町が生まれた井戸があるとのこと。さらに、恋人である深草少将に返事をしたために名付けられた御返事（おっぺじ）という地名が存在する。ここにある御返事橋で、百日通いをしていた深草少将が、洪水によって流されてしまったとされている。この話は、百夜通いの話と大変酷似するため、どちらが本当かはよく分からないが、自身の出身地が世界三大美女の一人の出身地であるとなれば大変喜ばしい限りである。

【安徳天皇】母（私も母も高知県南国市出身）から聞いた話。高知県越知町の横倉山は、源平合戦から逃れてきた安徳天皇が居を構えた地といわれ、山頂には墓も存在するらしい。越知町は南国市からかなり遠く、母の話もあいまいで、本当に安徳天皇の墓なのかはよく知らないが、四国には平家の落ち武者が多く流れてきただろうし、そんな伝説が生まれても不思議ではない。個人的には安徳天皇が壇ノ浦で死ぬことなく、しかも高知で暮らしたという伝説は何となくうれしい。

【岩】越木岩神社（兵庫県西宮市）の御神体は、靈感あたたかな非常に大きな岩である。豊臣秀吉が大坂城を造営する際、役人がこの岩を城壁に用いようと、石切職人に命じて岩を切らせようとした。すると、切り口から突然煙が出て、石切職人がその煙に包まれ、命を落としたという。実際に私が訪れた時、岩にはその時のものと思われる切り口があった。

【お菊井戸】播州皿屋敷に出てくる「いちま〜いに〜まい」のあのお菊さんが投げ捨てられたとされる井戸が姫路東高校にある。姫路城に登ると、ここがお菊井戸だと紹介される井戸があったり、お城の前にはお菊神社というお菊さんを祀る神社があったりするのだが、本来のお菊井戸は当時侍屋敷のあった東高校にあるのだという。今では何の変哲もない井戸らしいが、東高校に通っていた友人の話では妙に嫌な気配のする場所らしい。

【破局スポット】地元広島宮島の宮島は神の島とも呼ばれ様々な伝説を持つ地であるが、その中でも地元で最も有名で、私自身が身をもって体験した伝説がある。「宮島でデートしたカップルは別れる」という伝説だ。伝説というよりもジンクス、迷信というべきかもしれない。カップルを見た神様が嫉妬して、カップルを破局させてしまうらしい。私も高校生の頃、デートで宮島に行き、その後、続かなかったという経験がある。

【口裂け女】母の実家のある岐阜県多治見市では、夕暮れ時になると俗に言う「口裂け女」がでるといふ言い伝えがあった。私の祖母が幼少期の私の母親に言って聞かせたらしく、その話を強く信じた幼少期の母は、おびえながら暮らしたようで、夕ご飯時までは必ず家に帰ってきたそうだ。私が多治見市に引っ越してきたのは小学五年生の頃なので、そういった妖怪は本当ではないだろうと推測がついたが、もし幼少期に聞いていたらかなりおびえただろう。この辺り一帯の特に高齢者は、口裂け女が出るという話をよく知っているようで、伝説の流布は面白いと感じた。

【ミッキー池ポチャ】岐阜市の小中学校には修学旅行に関して「修学旅行でディズニーに行けないのは学校の先輩がミッキーを池に落としたから」という都市伝説があります。別に修学旅行でディズニーに行けないわけではないのですが（実際、中学校の頃に行きました）、私の周りでは知らない人がいないほど広まっている都市伝説です。私は小学校の先生から教えられました。この伝説の起源は分かりませんが、母親も小さい頃に聞いたことがあるそうで、歴史は長いようです。

【赤い紙・青い紙】韓国で多くの伝説を聞いたことがあります。その一つは、赤いティッシュと青いティッシュのどちらかを選べというトイレ幽霊の話です。古いトイレに入っている人が「赤いティッシュをあげようか、青いティッシュをあげようか？」と聞かれ、赤いティッシュを選ぶと血まみれになって死に、青いティッシュを選ぶと息が詰まって死ぬ、という話。韓国人ならほとんど知っている有名な怪談です。私もこの話を小学校の時から高校の時までずっと聞きました。学校の休み時間に友人と一緒にトイレに行く時、友人を怖がらせるためによく話した記憶があります。

【犬鳴峠】小学校の頃、怖い話好きの友人から聞いた都市伝説。福岡県宮若市と糟屋郡久山町との境にある県道21号付近の「犬鳴峠」という場所に、現在は閉鎖された旧犬鳴トンネルがあり、今こそ立ち入れないが、トンネルの向こうには「犬鳴村」と呼ばれる村が存在するという。このトンネルは日本でも有名な心霊スポットとなっており、「最寄りのコンビニからは警察につながらない」であったり、「『この先日本国憲法は通じません』と書かれた看板があり、村に立ち入ろうとすると村人が斧や鈍器で襲ってくる」といったうわさがある。聞いているだけでも、ぞっとするほど怖い話である。

【!】小学二年くらいの頃、駄菓子屋のお婆さんは、よく不思議な話をしてくれました。特に印象深いのは「星降る夜の石」の伝説。ある冬の夜、小学校の隣の青砥公園に一つの星が落ち、輝く石が見つかった。その石を持つ者はどんな願いも叶うとされましたが、願いを叶えるたび、心の大切な何かを失うという噂もありました。お婆さんは若い頃、その石を探しに出たことがあるそうです。しかし、公園の古い桜の木の下で、誰かの笑顔を思い出し、探すのをやめたとか。「大事なものは目には見えないのよ」。優しく微笑むお婆さんの顔が今でも忘れられません（東京都葛飾区）。